



北九州市立大学

THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU

北九州市立大学学術シンポジウム

科学技術と倫理

—軍事と民生の狭間で—

科学技術は私たちの暮らしを豊かにするのでしょうか。原子力に対する安全神話が崩れるとともに、放射性廃棄物処理の問題は一向に解決の兆しが見えません。

また、防衛省は安全保障を前面に押し出して、新技術の獲得のために研究者に研究資金を提供し始めました。防衛省の下に発足した防衛装備庁は、日本の技術力をアピールして、海外への武器輸出を図っています。儲ければそれで良いのか、研究資金が手に入ればそれで良いのか。日本社会全体で問われるべき問いなのではないでしょうか。

このシンポジウムでは、科学技術と社会の在り方について、文系と理系の双方から多角的に論じ、この社会の行く末を考えたいと思います。

2018年1月27日(土)14時~17時

入場
無料

北九州市立大学北方キャンパス本館 C301 教室

★事前申込み不要 先着100名様

★ご来場の際は公共の交通機関をご利用ください お問合せ:北九州市立大学地域・研究支援課【TEL093-964-4080】

報告者



報告:軍学共同が推し進められようとしているなかで科学者に求められる倫理を中心に

池内 了 名古屋大学名誉教授。理学博士。専門は宇宙物理学。『科学・技術と現代社会』

(上・下)(みすず書房)、『科学者と戦争』『科学者と軍事研究』(以上、岩波新書)など著書多数。軍学共同反対連絡会共同代表を務めるなど、大学人が軍事研究に関与する動きに警鐘を鳴らしている。

報告:武器輸出が推し進められる中での日本企業のスタンスについて

望月衣壘子 東京新聞社会部記者。『武器輸出と日本企業』『新聞記者』(以上、角川

新書)、『亡国の武器輸出』(共著、合同出版)など著者多数。武器輸出問題だけでなく、森友・加計学園問題など、世論が納得できない問題をとことん追及している。



報告:工学系技術者の立場から考えるデュアル・ユースと倫理

梶原昭博 北九州市立大学副学長、環境技術研究所所長。工学博士。情報通信工学を

専門とし、広帯域無線技術を用いた通信ならびにセンサの開発を行っている。



司会 土井 和重 北九州市立大学 法学部准教授

討論 大平 剛 北九州市立大学 外国語学部教授